

日本災害看護学会JSDN / 第46号 2023年 12月 1日

【事務局】日本災害看護学会事務局（株式会社ガリレオ学会業務情報センター）

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨1-24-1-4F TEL.03-5981-9824 FAX.03-5981-9852

http://www.jsdn.gr.jp/ e-mail : g034jsdn-mng@ml.gakkai.ne.jp

第10期 新理事長 ご挨拶

理事長 大野 かおり

いつも日本災害看護学会にご理解とご協力を賜り、こころよりお礼申し上げます。令和5年2月に役員選挙が行われ、9月の定時代議員会で理事、推薦理事の承認をいただきました。第10期理事会（令和5年から2年間）は、理事15名、監事2名の合計17名で発進いたします。歴代の理事長のみなさまがその叡智と実行力により築き上げてきた学会の取り組みを引き継ぐ身として、力不足を痛感しておりますが、理事会メンバーの力強い支えのもと、災害看護の発展に向けて堅実かつ柔軟に学会運営に当たる所存です。

今期は学会設立より25年目を迎えますが、災害は甚大化、複雑化し本学会への期待と役割はますます大きくなっています。さまざまな人や組織、地域、学協会と連携・協働しながら、災害看護活動体制の強化、災害看護学の知識体系化、災害看護に関する国内外ネットワークの充実に向けた取り組みを展開していきたいと思っております。

個人会員・組織会員のみなさまには、引き続き、ご協力・ご支援賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【第10期役員】

理事長	大野 かおり
副理事長	酒井 明子
組織会員理事	齋藤 正子
理事	河原 加代子、神原 咲子、佐々木 久美子、 松岡 千代、渡邊 智恵
推薦理事	今津 陽子、大村 佳代子、立垣 祐子、 西上 あゆみ、増野 園恵、宮前 繁、渡邊 聡子
監事	東 ますみ、三浦 英恵

第25回年次大会を終えて

大会長 大野 かおり

「実践共同体で育てる災害看護の底力」をテーマに、日本災害看護学会第25回年次大会をアクリエひめじ（姫路市）にて開催いたしました。第21回年次大会から4年ぶりの完全対面による開催となりましたが、800名近い方にご参加いただきましたこと、こころより感謝申し上げます。

COVID-19が5類感染症に移行したとはいえ、第8波と変わらない感染の様相を示していた初夏の頃には「本当に会場開催できるのだろうか」と不安な気持ちでいっぱいでしたが、「災害看護に取り組む者だからこそ、会場でも安全を確保して開催できるところを見せなくては」と企画委員一同、鼓舞して取り組み、無事に終えることができました。

今回は学会設立から四半世紀という記念すべき大会となり、初代理事長の南裕子先生による25周年特別講演をはじめ

め、歴代理事長による25周年特別シンポジウム（写真）、25周年記念海外招聘講演、特別講演、教育講演、シンポジウム、トークセッション、緊急報告会、学会企画、市民公開講座、共催セミナーを開催しました。一般演題では47題の口演と32題の示説、6題の交流集会・ワークショップと多くの方々による発表がありました。

どのセッションにおいても活発なディスカッションが行われ、会場のあちこちで参加者同士の情報交換や交流の場面も見受けられました。災害看護をとらえて参加者同士がつながる大会になったのではないかと感じております。これもひとえに、みなさまのご支援とご協力の賜物です。あらためて、こころより感謝申し上げます。



第25回年次大会「市民公開講座」開催報告

社会貢献・広報委員会 委員 江口のぞみ

記念すべき第25回年次大会において、朝の情報番組「おはよう朝日です」でお馴染みの気象予報士 正木明さんを講師にお招きし、「正木明さんと学ぶ、天気予報の活用術ーかしこく備えよう！今日から天気予報の見方が変わるかも!?ー」をテーマに市民公開講座を開催いたしました。

当日は学会参加者や一般の方を含む多くの方々にご来場いただき、正木さんの豊かな語りにより会場は大いに盛り上がりました。講座では、天気予報の基本的知識や着眼点、自然災害への備え、発災時の避難行動、気候変動に関する最新情報など、多彩な視点でご講演いただきました。また、来場者とのディスカッションの中で、地球温暖化（沸騰化）対策として一人ひとりが始められること、メディアに期待することなどが語られました。

講演後のアンケートでは、講演内容に対して9割を超える方が「大変満足」・「満足」と回答され、今後の生活に「大いに活用できそう」・「活用できそう」と回答されるなど、参加者の満足度の高さが表れていました。自由記述では、災害時の「自助」と「公助」の大切さを学んだ、周囲に伝えていきたいといった声が多く寄せられていました。私たちにあって身近な天気予報を通して、災害の備えに対する意識が高まり、実践につながっていく、大きな可能性を共有することができました。

あらためまして、市民公開講座の開催にご尽力いただいた皆様、ご来場いただいた皆様に心より感謝申し上げます。



災害看護学における国際雑誌の意義とHEDN

HEDN副編集長 兵庫県立大学 副学長 坂下 玲子

災害の予測は難しいが、世界のどこかで常に発生している。日本は災害大国といわれ、また看護職は常にフロントラインに立ち人々の支援を行ってきたがゆえに、災害看護の知を日本から発信していかなければならない。2012年、「災害看護グローバルリーダー養成プログラム (DNGL)」が文科省に採択された。そこで、最新の情報発信、若手研究者の育成、リサーチコミュニティの拠点形成を目的として、2014年世界初の国際災害看護学雑誌Health Emergency and Disaster Nursing (HEDN) が創刊された(坂下 看護研究, 47, 440-448, 2014)。本誌は、災害看護の歴史研究で著名なBarbara Wall博士を編集長とし、日本、米国、オーストラリア、インドネシア、英国など、世界中の研究者が編集委員を務める。また、災害研究の迅速性と多様性に応えるため、原著論文だけでなく、総説、実践報告、速報、History Papers、Image Essayを用意している。2021年よりオープンアクセスジャーナルとなり、論文掲載料は著者負担としているが、著作権は生涯にわたり著者が保持できる。DOAJにも収載され、高い品質基準を満たしていることが証明されている。

世界中で災害とその後遺症に苦しんでいる人々を支援するため、あなたの記事を是非、投稿してほしい。現在、日本災害看護学会と連携し論文投稿支援を行っている(詳細は国際交流委員会またはHEDNに照会)。また、HEDN運営のためのご寄付を募っている(税制の優遇措置あり)。

<https://hedn.jp/ja/>

HEDNで公開中の記事閲覧はこちらから↓

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/hedn/-char/en>

HEDNへの投稿はこちらから↓

<https://mc.manuscriptcentral.com/hedn>

Series委員会活動!「若手アカデミー委員会」

若手アカデミー委員会 委員 松田 朋子

本委員会は、2019年度に若手アカデミープロジェクトとして活動を開始し、2022年度に若手アカデミー委員会となりました。

本委員会の主な活動目的は、若手研究者のネットワーク形成と、関心のあるテーマごとに分科会をつくり調査結果等に基づいて提言をまとめ本学会に報告することです。昨年度は4つの分科会が活動し、その成果である各提言を第25回年次大会交流集會にて報告しました。本年度は、「感染症流行下における医療機関の多数傷病者受け入れ訓練の在り方」「日本における難民と避難民の支援」「災害関連死に関する課題」「現任教育に求められる“災害看護”に関する知識の整理」「他学会との連携や災害看護学会の役割」の5つのテーマで分科会を設けて活動を開始しています。また、さらなる災害看護のネットワークの拡大と発展に向け、日本災害看護学会学生会の設置・運営支援を行っています。

本委員会メンバーの参加要件は45歳未満の博士・修士課程修了者またはそれと同等の者で、災害看護の課題に取り組む意欲のある学会員です。メンバーの背景は、大学教員、病院看護師だけでなく訪問看護師、NGO職員、大学院生など多様です。活動のプラットフォームとしてSlack

を活用し、情報交換・情報共有をしながら、Zoomを使用して各分科会での会議や、分科会横断の交流も行っています。

本委員会への参加を希望される方は、以下のURLまたはQRコードより申し込みをお願いいたします。

(<https://forms.gle/Mzg43iuNKkyaPgCk6>)

お問い合わせ先

(jstdn-ya2019@googlegroups.com)



Series委員会活動!「組織会員委員会」

組織会員委員会 委員長 斎藤 正子

組織会員委員会は2005年度より活動を開始し、2006年度より会則第7条に位置づけられ、組織会員間の情報共有および相互啓発を推進することを目的として活動しています。2023年9月末現在、組織会員数は33組織です。2022年度の活動は、第25回年次大会組織会員委員会企画のシンポジウムとしてテーマ「災害・新興感染症流行時勤務する看護職への心理的支援の実際と課題」を開催しました。

組織会員委員会では、近年多発する災害発生時に対応できるように、組織会員間で連携することで応援体制を取ることや平時から災害時の施設の取り組みとして人材育成などを発表する機会とすることに取り組んでいます。しかし、課題として組織会員の減少があります。その理由としては、①組織会員のメリットが明確ではない、②組織会員の役割と意義に関する変化、③組織会員入会や費用等に関する組織的合意の必要性が挙げられました。

そこで組織会員のメリットを明確にし、組織会員入会や費用等に関する見直しを行い、入会促進パンフレットで案内および依頼することで組織会員の増加および連携強化を目指したいと思います。それぞれ設置目的が異なる組織会員が有機的に結びつき、災害への備えや災害時の活動、支援等に役立つ情報や知識をお互いが共有して支援活動に取り組んでいきたいと思っています。また、まちの減災ナース指導者育成委員会の「まちの減災ナース指導者®」育成を組織会員の都道府県看護協会とモデル事業に取り組み、地域減災看護活動を全国に普及したいと考えています。今後とも組織会員へのご入会・継続及び、ご支援・ご協力何卒よろしくようお願い申し上げます。

編集後記

2023年も残りわずかとなりました。地球沸騰化といわれる中、今年も度重なる台風や豪雨、地震による災害に見舞われました。被災されました皆様には、謹んでお見舞い申し上げます。COVID-19感染症も2類から5類へと変わり、3年ぶりに兵庫県姫路市で記念すべき第25回年次大会が開催されました。久々に皆様と会うことのできた大会は、9月とは思えない、それこそ災害級の暑さが続く中での開催となりましたが、これまでの本学会の歩みと活動を振り返るとともに、人と人とのつながりの大切さや喜びを改めて感じる大変意義深い大会になりました。今号では、新理事長および第25回年次大会長からのご挨拶、同大会での市民公開講座、topicsとして災害看護学における国際雑誌について、Series委員会活動から若手アカデミー委員会と組織会員委員会について掲載いたしました。今後も、皆様の活動に役立つ情報を発信し続けていければと考えておりますので、引き続き、よろしくお願いいたします。(社会貢献・広報委員会 委員 石橋 信江)